

校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。今号は、福岡県・私立福岡女学院中学校・高校が、「総合的な探究の時間」の課題設定で活用しているワークシートについて検討した。

Before

プロジェクト作成のための発散と収束のフレームワーク
(WHAT)→WHEN/WHERE/WHO→WHY→HOW)

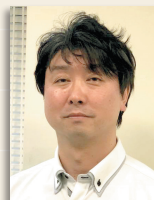
WHAT	
SDGsのゴールやターゲットに関連する解決したい問題を課題として設定する。	
発散 (とにかくたくさん出す)	収束 (取り組む目標を決める)
例) (目標2 ナイト2.1) 2030年までに、飢餓をなくし、すべての人々、特に脆弱層および途上国を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。 (目標16 ナイト16.2) 子どもに対する虐待、 (目標4 ナイト4.7) 2030年までに、持続可能な	例) (目標2 ナイト2.1) 2030年までに、飢餓をなくし、すべての人々、特に脆弱層および途上国を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。←私たちが取り組む目標! ※この段階で、解決したい問題を定める。
WHEN, WHERE, WHO	
どんな問題が、いつ、どこで起こっているのか。誰に影響し、誰が関係しているのかを洗い出す。	
発散 (とにかくたくさん出す)	収束 (範囲にまどめる、または選ぶ)
例) 日本での食料自給率の低下 (39%) 日本での食料廃棄量の多さ 日本での子どもの貧困による栄養不足 この50年で世界の農地は12%しか増加していないが、農業生産量は3割に増えた。しかし、水不足が問題となり、このままでは生産量は増えない。 2014年のアフリカでは4人に1人が飢饉の状態。 中国では砂漠化による農地減少 畜産物へのエサのための穀物消費	例) ①日本では、食料自給率は低い ②日本では、食料廃棄量が多し←私たちが取り組む目標! ③閉じ国での所得の差による栄養不足の発生 ④人口増加地での農地の不足 ⑤アフリカでの飢饉 (日本にもある) ⑥世界レベルでの畜産物に与える穀物量の多さ ※この段階で、解決したい問題を定める。
WHY	
なぜその問題が発生しているのかを洗い出す。	
発散 (とにかくたくさん出す)	収束 (解決したい理由をまとめる)
例) ②について ・賞味期限と消費期限の区別ができていない ・賞味期限の気にしすぎ ・外食が多い ・見た目を気にして食材を選んでいる ・家庭食への関心 ・惣菜などの食品ロスを考えない食産業のあり方	例) 利益優先の、食品ロスが発生する食品生産、および賞味期限を気にした食品販売のあり方に問題がある。
HOW	
どのようにその問題を解決するかを考える。	
発散 (とにかくたくさん出す)	収束 (1-2つに絞る、または組み合わせる)
例) ① ・お家で惣菜作りワークショップ開催 ・スーパーやコンビニで実施している食品の実験調査 ・少しずつ買える生鮮食品の売り方を変える ・廃棄する食品の再利用を考える	例) 簡単に家計の食品での惣菜の作り方を上げるワークショップを実施する (食品廃棄の問題をテーマにする) ※食品ロスの削減を目指し、惣菜の文化を大切に、粗悪品や「やがて」に直接不利益を与えない解決策

生徒に配布する記入例

グループごとに興味のあるSDGs(*1)の目標について、考えを自由に出し合う「発散」、それらをまとめて整理したり、新たな考えを生み出したりする「収束」を促して課題設定を行う。「WHAT」「WHEN, WHERE, WHO」「WHY」「HOW」の順に、4観点で発散と収束を繰り返し、探究テーマを絞り込んでいく。

改良会議実施校

福岡県・私立 福岡女学院中学校・高校



進路指導部副主任

柿原寿人

かきはら・ひさと

教職歴23年。同校に赴任して4年目。「はないち委員会」リーダー。



宗教部

清水久美子

しみず・くみこ

教職歴17年。同校に赴任して10年目。「はないち委員会」所属。



進路指導部

山田貴翔

やまだ・きしろう

教職歴6年。同校に赴任して5年目。「はないち委員会」所属。

ねらい

課題設定では、「プロジェクト作成のための発散と収束のフレームワーク」という思考ツールを活用して、グループで探究テーマを練り上げる。個々の思考を深めるとともに、話し合いを活性化させて協働学習のよさを引き出すことがねらい。

課題

- 1 生徒に探究学習を「自分事」として捉えさせ、一人ひとりが本気で思考して意見を出し合い、深めていく活動を生み出したい。
- 2 「発散」の話し合いでは、反対意見を含めて多様な考えを出させて、「収束」を充実させたい。

福岡県・私立福岡女学院中学校・高校

◎キリスト教精神に基づき、1世紀以上にわたり自立・自律した生徒を育てる女子教育を実践。2018年度より「21世紀型能力」を養成する「凜」として花一輪プロジェクトを開始。伝統的に芸術教育(美術・音楽)にも力を注ぐ。

◎設立 1885(明治18)年

◎形態 全日制/普通科・音楽科/女子校

◎生徒数 1学年:中学校約120人、高校約220人

◎2020年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、九州大、佐賀大、愛知県立芸術大、島根県立大、北九州市立大などに11人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、早稲田大、福岡女学院看護大、福岡女学院大などに延べ110人が合格。

◎URL <https://www1.fukujo.ac.jp/jis/>

* 1 Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連が掲げた持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。

2年生 課題設定ワークシート



After



振り返りを最初に確認させることで、どのように活動すればよいかが明確になりますね。思考の整理のためのシンキングツールを本校オリジナルのワークブックで解説し、今回のワークシートと併せて活用することで、チームでの発散・収束がしやすくなり、生徒はチームの価値を実感しながら課題設定に取り組めると思います。



個人の考えを深め、他者の意見を認識し合うツールに改良されたことで、本校のプロジェクトの基盤となる考え方「大切なひとり」を、より実感させることができそうです。視野を広げ、他者を認め合う協働学習の面白さを引き出していきたいです。



個人の考えを深める欄を設けたことで、話し合いにおける自分の立場を明確にさせることができそうです。また、他者の考えを書く欄を設けたので、どの生徒も他者と意見を共有することができるように、自分自身の意見をメタな視点で見ることにもつながるのではないかと思います。

プロジェクト作成のための発散と収束のフレームワーク (WHAT → WHEN/WHERE/WHO → WHY → HOW)

WHAT	
SDGsのゴールやターゲットに関連する解決したい問題を課題として設定する。	
発散	個人(土台) ①自分の興味・関心の土台を確認/ハンドブックを読んで気になったこと、また、SDGsと自分の経験や興味・関心などが結びつきそうだと感じたことを自由に書こう ②上記を参考にして、SDGsのゴールやターゲットで興味・関心のあるものを、とにかくたくさん書こう SDGsの目標を自分の興味・関心や身近なことと結びつけて考えさせ、「自分事」として捉えやすくするとともに、話し合いの土台をつくる。
	他者(変化) ③ほかの人の考えで面白いと思ったことを書こう ほかの生徒の考えの中で面白いと思ったこと、その理由を書かせて、自分の思考の変化に気づかせる。 ←なぜ面白いと思ったのかを書こう
収束	④話し合いの中で重要だと思ったキーワードを書こう
	⑤SDGsの中で取り組んでみたい目標を決めよう 自己評価欄には、他の生徒に遠慮し過ぎず、自由に発想して率直に考えを表明できたかなど、話し合いに大切な観点を盛り込む。
活動の振り返り	
<<自分自身の姿勢>> ◎自由に発想して発言できた 1・2・3・4・5 ◎SDGsの目標を自分の興味や経験と結びつけられた 1・2・3・4・5 <<他者へのかかわり方>> ◎時には反対の意見を述べるなど、率直な意見交換ができた 1・2・3・4・5 ◎他者の意見を参考にして自分の考えを更新できた 1・2・3・4・5	

改良ポイント

- 1 事前に自分の興味・関心や考えを深める個人ワークの時間を設定し、話し合いの「土台」を固められるようにする。
- 2 他者の考えを聞いて自分の考えを見つめ直す「変化」のステップを踏んでから、「収束」に向かえるようにする。
- 3 自分自身の姿勢や他者へのかかわり方を振り返る自己評価欄を追加し、話し合いで大切なことを意識できるようにする。

どのような対話を通じて改良できたのかは、次ページで!!



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

実録

改良会議

先生方の
対話のダイジェスト個々の内面をじっくり深めてから
率直な意見交換で意欲を高め合い、
協働学習のよさを引き出す

探究学習を「自分事」として捉えさせる

荻原 探究学習では、生徒に課題を設定させることに難しさを感じる先生が多いと聞きます。このワークシートでは、どのような課題設定を理想と考えて作成されたのでしょうか。

柿原 他者と考えを交わし合いながら個人では到達できないゴールを目指すのが、グループによる探究学習のよさです。課題設定においても、まずは皆が頭に浮かんだことを存分に出し合い、続いて議論を交わして探究テーマを練り上げていくプロセスを体験させようと考えました。

山田 メンバーがお互いの興味・関心が異なることを知ることで、広い視野で探究学習が始められると期待しましたが、興味・関心の共有が活発化しないグループも見られました。その要因の1つは、探究学習のテーマを「自分事」として捉えられていないことにあると感じました。周りに遠慮して率直に考えを述べられないから、声が大きくな生徒の考えが通ってしまい、ますます自分事ではなくなる……。

清水 そうした反省もあり、今年度はまず、興味・

関心のあるSDGsの目標と、それを選んだ理由を書かせてから、グループ分けを行いました。すると、「こんなことが書けるのか」と驚かされたほど、深い考えが述べられていたのです。そうした考えを相手に伝えたいくなる仕組みの必要性を痛感しました。

荻原 いきなりワークシートを提示し、「さあ、話し合おう」と促しても、当事者意識を持つのは難しいかもしれません。まずは自分の考えを整理して話し合いの土台を固めさせることができれば、生徒はどう変化しそうですか。

柿原 個人ワークの時間をあまり設けなかったのは、個人で考える過程で視野が狭まり、グループ活動の必要性を感じなくなるのではないかとという心配があったからです。しかし、個人が深い考えを持たなければグループの考えは深まりづらいので、それぞれの考えの違いを明らかにし、面白い議論を生み出させたいです。チームビルディングをしっかり行った後、思考の深め方を丁寧に示したワークブックを参照させたいと思います。

山田 個人ワークで話し合いの土台を固めることで、自分事として探究テーマを捉えやすくなりそう



改良会議ファシリテーター



VIEW21編集部
高領域担当
荻原香織
おきはら・かおり

今回、対話の場を持ったことで、先生方の課題意識が共通していることが確認され、改良への糸口が見えてきました。会議の序盤は、探究学習の苦労や難しさが語られましたが、先生方が意見を交わし合う中で、「こうすればできそうだ」「あれも試してみたい」といった前向きな言葉へと変化していったのが印象的でした。

改良会議を振り返って



普段は校務に追われ、前向きな議論をする機会はほとんどないので、新鮮な気持ちでした。自分でも言い表せなかった「何か」が少し見えたような気がしました。

今回の改良会議を通して、自分の意見を言語化し、他者と対話することの重要性を改めて感じました。生徒が豊かな発想を表現できる方法を、今後も考えていきたいです。

イノベーションを生み出すのは多様な人々との対話だと実感しました。VUCA(＊)な時代、教師の得るべきスキルが、ティーンズからファシリテーションへと変わってきています。

荻原

改良の方向性がかなり見えてきました。最後

同調圧力を払拭し、ドラマチックな学びを生み出す

です。さらに「〇〇さんと違い、私はこう考える」などと、率直な考えを述べやすくする仕かけがあるように思います。例えば、異なる考えを述べることにポイントがもらえる仕組みにする、などです。

清水 面と向かって意見を言うのが難しいのなら、共感した点を伝えるのは黄色、異なる考えを伝えるのは水色などと、違う色の付箋紙に書かせてポイントを与えるなどの仕組みをつくってもよいですね。

柿原 「異なる考えも大切」という意識を持ち続けられるように、ワークシートに自分とは異なる意見を記入する欄を設けてもよいかもしれません。さらに、他者とどうかかわったのかなどを自己評価するループブックを載せるのもよいと思います。



に、今後、探究学習をどう充実させていきたいか、目標と意気込みをお願いします。

山田 先ほどから探究学習は自分事として捉えられ、それが重要だと述べてきましたが、それは教師も同じです。分からないことを探究する姿勢を教師自身が楽しむことで、生徒が存分に楽しめる、ドラマチックな探究学習を生み出したいです。

清水 本気で興味を持てるゴールに向かう中で、普段の授業での学びが実は社会課題にアプローチすることに役立つと気づいてもらいたいです。そして、生徒が内に秘めた可能性を発揮して、私たちを驚かせてくれることを楽しみに指導していきます。

柿原 教師も生徒も「同調圧力をぶっ飛ばす！」といった気持ちで自由に意見を交わし合って、新しい学びをつくり上げていきたいですね。前年度の活動を振り返ってブラッシュアップを繰り返して、一歩ずつ進んでいくのみです。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

指導ツールを募集しています！

「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける先生及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの学校のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①～④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認ください

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容（目的・活用時期・活用方法）
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良！ 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口（0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時）にて承ります。（株）ベネッセコーポレーション CPO（個人情報保護最高責任者）
上記をご承諾くださる方はご送信ください。

* 2 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字から取った言葉。